

小学校第4学年 国語科 学習指導案

1 単元名

段落どうしの関係をとらえ、説明のしかたについて考えよう
「アップとルーズで伝える」（光村図書）

2 単元について

(1) 本単元は、小学校学習指導要領解説国語編第3学年及び第4学年の「C読むこと」「イ 目的に応じて、中心となる語や文をとらえて段落相互の関係や事実と意見との関係を考え、文章を読むこと。」「エ目的や必要に応じて、文章の要点や細かい点に注意しながら読み、文章などを引用したり要約したりすること。」の学習である。

本教材「アップとルーズで伝える」は、分かりやすい説明とはどのようなものであるかを学ぶのに適した文章である。

各段落の役割や、段落相互の関係について考える学習については、第3学年の説明的な文章教材から経験を積み重ねている。本教材を通して、さらに段落の対比関係、同じ段落における対比の効果について学習する。その上で、段落が文章全体の中でどのような役割を果たしているかを考えていく。対比して述べることで二つのものの違いがより明らかになるという本単元において新たに学んだことが、他の文章を読むときだけでなく、児童自身が話したり書いたりして何かを伝えるために説明する際にも役に立つという意識をもたせたい。このような学び方を体験することによって、「言語を手掛かりとしながら論理的に思考する力」を育成することができると考え、本単元を設定した。

(2) 本単元の系統は次のとおりである。

第3学年（11月）	第4学年（11月） 本時	第5学年（11月）
せつめいのくふうについて話し合おう すがたをかえる大豆 【読むことイ】	段落どうしの関係をとらえ、説明のしかたについて考えよう アップとルーズで伝える 【読むことイエ】	説明のしかたの工夫を見つけ、話し合おう 天気を予想する 【読むことウオ】

(3) 児童の実態は次のとおりである。

○第3学年での「すがたをかえる大豆」では、「中心となる語や文をとらえ、段落相互の関係を考えながら読む」ことや「写真と文章を対応させて読む」学習を行っている。また、「すがたをかえる大豆」の説明の仕方よさを見つけ、見つけた説明の仕方を生かし、説明的な文章を書く経験をしている。

○平成29年度熊本県学力調査の結果から、国語科のすべての観点について県平均を上回っているものの、「場面の様子に気を付けながら、内容を正確に読む」ことの定着率に課題が見られ、県全体の課題と同様の傾向を示している。また、「目的や条件に応じて、図鑑に書かれていることを整理して書く」ことについても定着率はあまり高くない。このようなことから、「内容を正確に読む」「目的や条件に応じて書く」ことについて課題が見られる。

(4) 指導に当たっては次の事項に留意する。

○ 研究の視点1，2に基づき、次のような工夫を行う。

【研究の視点1】

「見方・考え方」に着目した問いの工夫

筆者の説明の工夫の効果に着目させる問いとともに、そのよさについて検討させる問いを工夫する。

【研究の視点2】

学びを実感する
振り返りの工夫

振り返りの中で、自分の文章に使ってみたい工夫をポートフォリオに書かせることで、学びを可視化する。振り返りの視点を明示し、学習過程・自己変容についても振り返らせる。

3 単元の目標と評価規準

単元の目標	◎それぞれの段落が全体の中でどのような役割を果たしているかを考えながら読むことができる。 ○写真と対応した部分に注意して読み、「アップ」と「ルーズ」それぞれの特徴を整理することができる。	
国語への 関心・意欲・態度	読む能力	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項
写真と文章を対応させて、説明的な文章に興味をもって読もうとしている。	①それぞれの段落の役割を本文の内容から理解している。C(1)イ ②写真と本文の対応関係を理解している。C(1)エ	指示語や接続語が、文や段落の関係を示す手がかりになることを理解している。(1)イ(ク)

4 指導・評価の計画（8時間取扱い 本時5／8）

単元を貫く問い：筆者(中谷さん)の伝える工夫を発見しよう。

次	時	学習活動	研究の視点	評価
一	1	1 新聞に使われている写真を分類し、「単元を貫く問い」を知り、学習計画を立てる。 既習事項を振り返り、「単元を貫く問い」について現時点での自分の考えをまとめる。	【研究の視点1】 「見方・考え方」に着目した問いの工夫 【研究の視点2】 学びを実感する振り返りの工夫	【関・意・態】①：観察 【読む】②：ワークシート
二	1	2 写真と本文を照らし合わせながら、正しく並べることを通して内容の大体をつかむ。		【関・意・態】①：観察 【読む】②：ワークシート
	1	3 「問い」がどこにあるのか考え、第3段落と第1・2段落の関係を考える。		【国】②：ワークシート
	1	4 まとめの文は、どれがいいのか選択し、第4～6段落の関係をとらえる。		
	本時 1	5 第7段落と第8段落は必要か考える。 (なぜ、第7段落と第8段落を筆者は入れたのか。筆者が伝えたいことは何か考える。)		【読む】②：ワークシート
二	1	6 文章構成を表にまとめる。		【読む】②：ワークシート 【伝国】②：ワークシート 【読む】②：ワークシート
	1	7 筆者の説明の工夫についてまとめる。		
三	1	8 新聞や雑誌での「アップ」と「ルーズ」の写真の使い方を見つけ、説明する上でのよさを調べ、報告し合う。また、自分の考えの変化について一次で書いたものと比較し、振り返り、自他の成長についてまとめる。		【関・意・態】①：ワークシート

5 本時の学習

(1) 目標

第7・8段落の必要性を考えることを通して、段落それぞれの役割や事例の挙げ方など、分かりやすくするための筆者の説明の工夫について考える。(読むことイエ)

(2) 展開

過程	学 習 活 動	指導上の主な留意点及び評価	備考
導入 10分	1 振り返り (1)これまで見つけてきた工夫について振り返る。 (2)教材文を音読する。	○前時までのまとめを振り返る。 ○「分かりやすさの工夫」を見つけ、ポートフォリオ（「秘訣の本」）にまとめ、自分の書き方や説明の仕方に生かすことを意識させる。また、発見した工夫は短冊に1つずつ書き、可視化できるようにする。 ○ポートフォリオに分かりやすい説明の仕方が集まっていることを視覚的に振り返ることができるようにする。 ○要点が書かれたセンテンスカードを提示し、内容の確認をする。	掲示物 秘訣の本
<p>[本時の学習目標] 各段落が必要かどうか考えることを通して、段落の役割や事例の挙げ方など筆者の説明の工夫を伝える目的とつないで考えることができる。</p>			
展開 25分	2 [本時の問い]について話し合う。 (1)自分なりの考えをもつ。 「自分の考えとその理由をワークシートに書きましょう。」 (2)第7・8段落について整理する。 (3)互いの考えを交流する。 【言語活動】(設定の意図) 多様な考えを聞く中で、第7・8段落の役割について考えることができる。	<p>能動型学習 (ポイント)</p> <p>[本時の問い] なぜ、筆者は第7段落と第8段落を書いたのだろうか。</p> <p>【研究の視点1】 「第7・8段落は必要ないのではないか。第6段落で「このように」とまとめているから。」と思考をゆさぶる問いをすることで、段落の内容や他の段落との関係を考えさせる。 ○筆者は必要だから第7・8段落を書いたことを一旦押さえ、[本時の問い]について、自分なりの現時点での考えと理由を書かせておく。その上で考えの交流を図ることにより、主体的に話し合いに参加できるようにする。</p> <p>徹底指導 (ポイント)</p> <p>○7段落からは、写真のことが書かれていることや8段落にまとめが書いてあることをセンテンスカードで整理する。 ○話し合いの仕方カードを使い、それぞれの考えが伝わるようにする。 ○児童の発言が不十分なときは、「なぜ？」と質問することで、児童の考えを引き出しつないでいく。</p>	話し合いの仕方
整理 10分	3 学習したことをまとめる。 [本時の問い]に対する分かったこと、気付いたことを伝え合う。 4 学習したことを振り返る。	<p>評価：読む能力（ワークシート） B基準第7・8段落に書かれている内容をそれぞれ読み取り、段落の役割や複数の事例を挙げる説明の仕方のよさに気付くことができている。</p> <p>A基準 B基準にある説明の仕方のよさが分かりやすさと関わっていることを自分の言葉で説明している。 〈B基準に達していない児童への手だて〉 ヒントカードなどの支援を工夫し、「テレビ」だけの説明と「テレビと写真」との説明との違いなど、比較しながら考えられるようにする。 ○本時で見つけた「分かりやすさの工夫」を児童の言葉でまとめる。</p> <p>【研究の視点2】 分かったことや自分が使ってみたい工夫をポートフォリオに書き加えさせる。学習過程や自己変容についても振り返ることのできる視点を示す。</p>	ヒントカード 秘訣の本